

ふるさとでの文学を語り継ぐ

勝呂 奏(高26)さんを訪ねて

五十歳にして長年の夢だった文学研究者として
大学に招聘。その素顔にせまる。

「評伝芹沢光治良」という一冊を手にした。質、量とにもずっしりとした大著だ。著者は勝呂奏氏。伊豆周辺の文学イベントで度々耳にする。天城の紅葉まつ盛りに、国民文化祭の打ち合わせにやって来たところを訪ねた。

— 現在のお仕事とそれに至る経緯を教えてください

大学院終了後、静岡市の私立中等高等学校に勤務しました。私淑する作家の小川国夫さんの近くに住めるという単純な理由からです。実際、すぐにお会いできる機会を得て、昨春逝去されるまで公私にわたる交際を得ることが出来ました。小川さんが会長の「文芸静岡」の会員になり、数年間編集長を務めたのも交際の一部です。

教鞭をとるかたわら好きな文学研究を続けて数冊の著書を出版しました。小川国夫、正宗白鳥、芹

沢光治良などです。世には不思議なことがあるものですね。若い頃に研究職に就きたいと思っていたのでそれに未練があったのですが、五十を過ぎたこの年齢になって桜美林大学に職を得ました。地道に続けていた文学研究が認められたわけです。

— 楽しみといたら何でしょう

読書です。仕事につながる読書が中心で、あまり最近の作品は読みません。古今東西の古典と呼ばれる作品を時間を作って読むように努めています。今読んでいるのはブリア・サヴァランの「美味礼讃」です。書名は知っていても長く未読のままでした。そうした読書をジャズを聴き、コーヒーをすすりながらするのが至福の一時です。

— うらやましい限り！文学研究の道に進んだきっかけは何ですか
現在の自分はどうのようにして作

られたのか考えることがあります。第一に親の存在です。文学の方向に歩み出す素地は教師だった父によって作られたと言えます。父は短歌を作り、伊豆の民話を採録したりと文学的な環境を家庭に作りました。

— 加えて蕪高で教えを受けた恩師を感謝の気持ちをもって思い出します。国語の高橋勝幸先生です。— ケンケン、ですね



国民文化祭の打ち合わせ中をパチリ！

ええ、何事もつまらなそうな先生でしたが、授業の中で語る「文学だけは好きだ」ということは疑えませんでした。そんな先生を仰ぎながら読書経験を重ねていったのが現在の基礎となっています。また同級生の安藤哲夫君と親しくなりました。梶井基次郎が結核療養したことで知られる湯ヶ島の宿、湯川屋の息子さんです。残念なこと安藤君は亡くなってしま

いしましたが、梶井ファンになるきっかけを作ってくれました。

— ご出身は土肥ですね

はい、蕪山寺家の母親の実家に世話になり下駄ばきで通学しました。その後父の転勤があり、伊豆仁田から田方平野を自転車通学しました。だから下宿生活を身にしみて味わうということはありませんでした。今となっては牧歌の世界です。

— 蕪高時代の思い出は

文学好きになった者に学科の勉強は愉しめません。進学と卒業の為に最小限のことしかしませんでした。優秀という言葉とは無縁の、かといって問題児でもなく、凡庸な一生徒であつたとふり返ります。当時、三無主義という言葉がありました。三無主義とは無縁の、かといって問題児でもなく、凡庸な一生徒であつたとふり返ります。う。いわゆる帰宅部に近い毎日で文芸部においても何をしたらというわけでもなく、プレハブの生徒会室に入り浸ったり、そこに同居する新聞部にちょっぴり出したりしてました。特に語るに足る高校生活ではありません。光りの中に立つこともない代り、陰の中に沈むこともなかったわけで、それは薄ら日の中にいたような感じでした。これは時間の遠近法が思わせるのでしょうか、そんな高校時代であってもそこに自分の原型があること

は確かです。
— 伊豆周辺の行事によく参加されていますね

故郷は人間の座標軸のように考えます。そこには不自由さもありますが、そこへ身を寄せなければ何ひとつ考えることもできません。その意味で故郷を大切に、できる限り恩返しをしたいと思えます。井上靖生誕百年祭に加えていただいたことは光栄でした。また国民文化祭・しずおか二〇〇九の文学フェスティバルをお手伝いできることも幸せに思っています。郷土愛を吹聴するつもりはありませんが、故郷にこれほど豊かな文学が培われたということ伝えていきたいのです。それは私の座標軸をより深く掴むことになると考えます。同様の機会には可能な限り協力していくつもりです。

文学研究者はやはり格調が高い。文芸的な、余りに文芸的な語り口に少々戸惑った。が、蕪高での生活がどうやら人生を方向づけたようで窓として嬉しくなった。また、いつもふるさとを意識し、ふるさとへ恩返しすることを心掛けていく。地元に残った者として本当に有難く、感動した次第。どうぞ今後ともよろしくお願ひします。

文責 原(高26)